

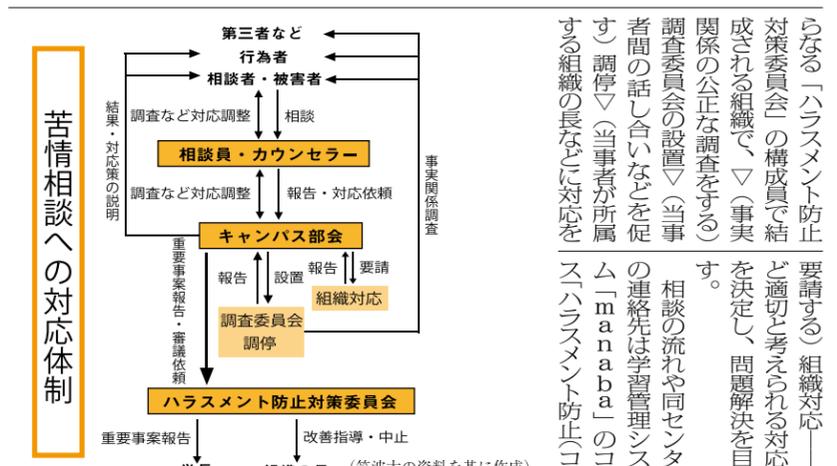
ハラスメント苦情相談

16年に相談センター設置

筑波大は2006年7月に「ハラスメント防止宣言」を出した。これに先立ち05年には、ハラスメントに関する大学の対応を示した「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定。16年にはハラスメントに関する相談業務などの充実を図るためハラスメント相談センターを設置するなど、ハラスメントのないキャンパスの実現を目指している。同センターや学生相談室などに学内のハラスメントに関する苦情の申し出及び相談(苦情相談)への対応体制を取材した。

筑波大の対応体制

筑波大では、専門資格を持つハラスメント相談センターのカウンセラーと、教職員の中から2年の任期で選ばれるハラスメント相談員が苦情相談にあたる。今年度は、筑波キャンパスに22人、東京キャンパスに27人の相談員が置かれている。人の相談員が置かれていないで相談にのじる。また、相談者が希望した場合、ハラスメント苦情相談記録簿を相談者と共で作成し、筑波と東京の各キャンパスに置かれた「部会」のいずれかに報告する。これらの部会は、学内各組織から選ばれた教職員が



らなる「ハラスメント防止対策委員会」の構成員で構成される組織で、▽(事実関係の公正な調査をする) 調査委員会の設置▽(当事者間の話し合いなどを促す) 調停▽(当事者が所属する組織の長などに対応を要請する) 組織対応▽(適切なと考えられる対応策を決定し、問題解決を目指す) 相談の流れや同センターの連絡先は学習管理システム「mana」のコーナーに載せている。

スコードxx20248」に登録すると閲覧できる。相談予約は電話やメールで受け付けている。

気軽に相談を

ハラスメントに限らず、筑波大生の困り事なら予約なしでも受け付ける窓口が「総合相談窓口」だ。適切な相談先が分からない場合もこの窓口になる。学生や教職員、保護者などからの相談に対応し、必要に応じて、ハラスメント相談センターや保健管理センター、学生相談室など、相談内容に合った学内の各種窓口を紹介する。

同窓口はスチューデント・プラザ(029-853-8430)と春日エリア(029-856-1207)の2カ所ある。学生相談室では、電話などによる予約制で、継続して相談(カウンセリングなど)ができる。ハラスメントに関しては、どのような解決策が相談者にとって納得できるものなのかを一緒に考えていく。その結果、他の相談先や窓口を紹介することもある。

学生相談室長の杉江征教授(人間系)は「対応では、学生の意向に沿うことを最も重視している。相談内容の秘密は保持されるので(ハラスメントに限らず)悩みがあれば気軽に相談してほしい」と呼びかけた。

総合相談窓口や学生相談室の相談員は公認心理師、臨床心理士、大学カウンセラーなどの資格を持つ。

現在、新型コロナウィルス感染症対策のため、主に電話やオンライン会議システム「Zoom」で相談に乗っている。

学生相談室の予約は(029-853-2415)まで。総合相談窓口と学生相談室のURLは(https://soudan.sec.tusukuba.ac.jp/)。

筑波大教員 逮捕

強制わいせつ容疑で逮捕された。水戸地検土浦支部は同27日、筑波大の教員を強制わいせつ容疑で逮捕した。水戸地検土浦支部は同27日、筑波大の教員を強制わいせつ容疑で逮捕した。水戸地検土浦支部は同27日、筑波大の教員を強制わいせつ容疑で逮捕した。

「強制わいせつ容疑で逮捕された」と、同署の逮捕時の取り調べに対して容疑を否認していた。筑波大は教員の逮捕当日の昨年12月7日に記者会見を開催。加藤和彦副学長(総務人事・情報環境担当)が「筑波大の教員が強制わいせつ容疑で逮捕されたことは誠に遺憾で、被害者に対して心からお詫の申し上げ」と謝罪した。

また、ウェブページでも「国立大学法人の教員という立場の者が、構内において、かかる行為を行ったことは許されざることであり、大学としてこのための事態を極めて重く受け止めています。今後、詳細が明らかになった段階で、大学として厳正な処分を行います」との見解を明らかにした。

(及川千翔)

CAF賞 稲田さんが最優秀賞

学生の生活の息遣い表現

国内最大級の学生向けアートコンペティション「CAF賞2021」(現代芸術振興財団主催)の最優秀賞に、稲田和己さん(情報P前期1年)の作品「住人たちが選ばれた。平砂学生宿舎9号棟の明かりを、周辺の学生の生活と連動させてもす作品で、コロナ禍の中で人々が暮らすとはどういうことを考えさせた点などが評価された。稲田さんは「工学技術を使った作品が芸術の分野でも評価され、とてもうれしい」と受賞の喜びを語った。



作品「住人たち」(平砂学生宿舎9号棟)の明かりが夜間に浮かび上がる=稲田さん提供

同賞は若手芸術家の創作活動の支援を目的に開催されている。「住人たち」は昨年11月の審査で、約500点の応募作から選ばれた。作品の舞台は、老朽化で使われなくなった平砂宿舎9号棟。2階と3階の計23室の電灯と筑波大周辺に住む学生の部屋の明かりを連動させ、学生の部屋で明かりがつけたり消えたりする

と、平砂宿舎の明かりもついたり消えたりするようにした。学生の部屋の明かりがついたことを検知するセンサーは、稲田さんが自作した。

この作品は2019年5〜6月、筑波大の有志学生の集まり「平砂アートイベント」が平砂宿舎9号棟を会場に企画した美術展「ここにおいて」で初披露された。稲田さんは「ここでしかできないものを作りたい」と、居住者がいなくなった学生宿舎の電灯を使うことを思いついた。居室の電灯の明滅を通じて、大学周辺に住んでいる、お互いに顔も知らない学生たちの生活の息遣いを表現する狙いがあった。稲田さんは「大学周辺の学生コミュニティは無数に存在する。作品を通じて、学生社会の多様性を

若者の献血リピーター頼み

コロナ禍で裾野縮小

茨城県の若年層(10代から20代)で、初めて献血する初回献血者数が減少傾向にある。2019年は5353人だったが、21年には約13%減の4669人になった。コロナ禍で、大学や高校に献血バスを配車する「学域献血」が減少した影響が大きいとみられる。献血ルームでの献血が

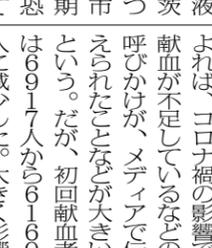
感じてほしい」と話す。今回の入選作は11月24〜28日、代官山ヒルサイドフォーラム(東京都渋谷区)で展示された。「住人たち」は、宿舎の写真や模型と、協力した学生たちが漏らした「昼夜逆転が」

ス会場でも献血ができる。これら2通りの献血者数の合計は、19年の9万8021人から、21年には10万6681人と1割近く増えた。同センターによれば、コロナ禍の影響で献血が不足しているなどの呼びかけが、メディアで伝えられたことなどが大きいという。だが、初回献血者は6917人から6160人に減少した。大きく影響したが、若年層の初回献血者の減少だ。

その背景には、学域献血の減少がある。県赤十字血液センターによると、献血ルームでの初回献血者は若年層の約1割だが、学域献血では約4割を占める。新型コロナウイルスの感染拡大前の19年は県内で108回の学域献血が実施されたが、21年は59回にとどまった。19年度には学域献血を4回受け入れた筑波大でも、20年5月以降は受

「夜はまたまた長い」家族で住んでいます」などの言葉が紹介された。

最優秀賞の受賞者には賞金100万円と副賞として個室の機会が提供される。稲田さんは来年度の実施に向けて準備を進めている。



文科相表彰 受賞

筑波大体育系アテップド体育・スポーツ学(AdS)研究室が主宰する「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

共通テスト実施

昨年引き続きコロナ下で大学入学共通テストの本試験が1月15日、16日に行われ、1日目は「地理歴史公民」「国語」「外国語」が、「2日目は「理科」の数

「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

たいそウ教室

筑波大体育系アテップド体育・スポーツ学(AdS)研究室が主宰する「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

共通テスト実施

昨年引き続きコロナ下で大学入学共通テストの本試験が1月15日、16日に行われ、1日目は「地理歴史公民」「国語」「外国語」が、「2日目は「理科」の数

「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

おこたわり

「たいそウ教室」(代表・齊藤けい)が、2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。2004年から17年間文部科学大臣表彰を受賞した。

大学での栄光を胸に 新たな舞台へ 旅立つアスリート

スポーツの強豪校として数々の名選手を輩出してきた筑波大から、今春も多くのアスリートが新たな舞台へと旅立つ。その中でも大きな活躍を見せた5人に、大学での競技生活や今後の展望を聞いた。

考える野球 プロにつなげる

野球

佐藤隼輔(体専4年)



団からも注目を集めた。だが高校卒業後は、大学の道を志した。「プロが大学が悩んだが、プロで活躍できる自信がなく、大学卒業後のドラフト1位指名を目標に、進学を決めた」と当時を振り返る。

最速150km/hのストリークと、制球の良さを生かしたスライダー、チェンジアップを武器に、エースとしてチームを支えた。昨年10月のプロ野球新人選手選択(ドラフト)会議では、埼玉西武ライオンズから2位指名を受けた。

プロ入りを意識し始めたのは高校3年生の4月。宮城県の地区大会に出場した時。試合には敗れたものの、甲子園の常連校、仙台育英高を相手に9奪三振を記録するなど好投し、各球

ラート競技 萩原沙里菜(体専4年)



ラートは、二つの大きな鉄製の輪を平行につないだ器具だ。競技では、このラートを自在に操り、パフォーマンスを披露する。ラートを垂直に転がす直転斜めに動き出す斜転、選手がラートに飛び乗り、そこから技を繰り出して着地する跳躍の3種目で競う。その中でも、特に跳躍を得意としてきた。昨年8月の全日本学生選手権(インカレ)では、ラートの上からの前方宙返り跳びを披露して優勝。直転、斜転でも優勝し、女子個人総合と合わせて4冠を達成した。

ラートを始めたのは筑波大に進める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。

東京パラに懸けた6年間

パラカヌー

瀨立モニカ(体専4年)



東京パラを本格的に意識したのは、大学1年時に出場したリオデジャネイロパラリンピック。競技歴わずか2年で女子スプリント・カヤックシングル2000級(運動機能障害者K1)の決勝に進出したが、最下位の8位に終わった。「東京では必ずメダルを取りたい」と、今では自信を持って

スタート時の強いこぎ出しが持ち味だ。ベンチプレスで80kgを持ち上げる腕力を生かし、パドルの素早い動きを推進力に変える。

筑波大に入学したのは2016年。東京パラリン

大に入学後。高校までは、ゆかや平均台など体操競技を専門としていた。大学でもスポーツに関する研究がしたいと筑波大進学を意識し、高校2年時の夏に大学説明会に参加した。その時

ラートは、二つの大きな鉄製の輪を平行につないだ器具だ。競技では、このラートを自在に操り、パフォーマンスを披露する。ラートを垂直に転がす直転斜めに動き出す斜転、選手がラートに飛び乗り、そこから技を繰り出して着地する跳躍の3種目で競う。その中でも、特に跳躍を得意としてきた。昨年8月の全日本学生選手権(インカレ)では、ラートの上からの前方宙返り跳びを披露して優勝。直転、斜転でも優勝し、女子個人総合と合わせて4冠を達成した。

大学から始めたラートで世界へ

ラート競技

萩原沙里菜(体専4年)

ラートを始めたのは筑波大に進める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。



2年時の全日本ラート競技選手権で跳躍を披露する萩原

昨季はJ1でも活躍

サッカー

山原侑音(体専4年)



は、J1清水エスパルスに張って戦うことに励んだ。2022シーズンの加入が内定した。同時にクラブの特別指定選手に登録された。

4年時には実際に清水エスパルスに合流し、昨年9月にはJ1デビュー。同日27日の浦和レッズ戦は、残留にかかわる試合だったが、プロ初アシストでチームの勝利に貢献した。

一方、筑波大では副将としてチームを率いた。時には厳しい声も掛けてチームを引き締めつつ、試合中は自身が誰よりも走り、体を

めきと実力を伸ばした。中学2年時に膝をけがして4カ月休んだが、フィジカルを鍛えてけがをしにくい体を築き、高校2年時の全日本学生選手権(インカレ)準決勝で、その年の全日本選手権準優勝で格上の今村昌倫(慶應義塾大)と対戦。得意のサーブを生かしたテニスで勝利し、準優勝した。



4年時の全日本学生選手権でプレーをする田形=全日本学生テニス連盟提供

4年間チームに貢献

テニス

田形諒平(体専4年)



当初は遊び感覚だったが、挑戦したが、結果は本戦一回戦敗退。「自信が崩れ、納得のいくプレーができなくチームを1部に昇格させる

強烈なサーブを武器に、数々の大会を勝ち抜いてき

「加藤さんから厳しい言葉で指摘されることもあったが、自らが率先して行動に移す姿を見て、その言葉を受け入れることができた。自分も部員に声をかける上で、模範となる行動をしなければいけない」と気づいたと振り返る。

退職教員5人に聞く

教育者・研究者 人生の軌跡



総合大学として多種多様な教員がそろった筑波大学。今年もまた教育者として、研究者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。5人の教授にこれまでの軌跡を聞いた。(及川千翔) 人文文学類、大橋翔和、天野隼太、寺尾優汰、比較文化学類、中山友萌香、生物学類

宗教を多面的に理解

専門は比較宗教学。宗教を社会的な側面と他面的な側面から比較することで、多面的な理解を深めることを目指してきた。

社会的側面とは、宗教が影響を及ぼす社会、政治、経済などとの関係のことだ。一方、他面的側面とは、シャーマニズムや神秘主義のように、個人の宗教体験に基づいたものを指す。

出身は鹿児島県の口永良部島。医師を目指して東京大理科2類に入学したが、同類から医学部に進学可能な人数はわずか、「入学後すぐに挫折した」という。次に希望した文学部も

成績が足りず、「人生終わらなから山林で余生を過ごす」と農学部林学科に進んだ。学部時代は新興宗教に興味を持ち、信者以外にも開放された集会があれば参加して話を聞いた。参加した宗教の多くは明治末に形成された大本教の流れをくむもので、その思想に親和性を感じたという。

研究人生を変えた恩師との出会い



津城 寛文 教授 (人社系・比較宗教学)

大学院では宗教学を専攻し、他面的な側面を持つ大本教の鎮魂儀礼と民俗学者折口信夫が唱える鎮魂論の比較研究を行った。大学院修了後は、日本学術振興会の研究員を務めた。転機は1990年。大学

し、城西国際大のポストを紹介してくれた。折口について研究を生かし、民俗学の日本の「深層文化」に関する本の執筆を勧められた。「深層文化」とは、日(現米)ジョージタウン大名誉教授)の著作「近代世界の公共宗教」の翻訳を持ちかけてくれた。「宗教社会学」に関する授業も担当していた。井門先生は自分の研究人生を変えてくれた。感謝しても足りない」と話す。

その後、静岡県立大を経て、2003年10月に筑波大に着任した。筑波大での授業でも、社会的及び世界的という二つの視点から教えてきた。「学生の視野が広がり、理解に厚みが出たのではないかと語る。

退職後は、再就職はしなかったが、研究活動は続けていく。「執筆した宗教研究や趣味の和歌を自主出版し続けることが目標だ」と笑った。

学際性に魅せられ 筑波大へ

専門とする教育臨床学は、教育現場を見つめ、教師や保護者が抱える悩みや子供が学校に適應する上で問題解決を支援する学問だ。自ら学校現場に赴き、カウンセリングも行ってき



庄司 一子 教授 (人間系・教育臨床学)

この経験から、授業は「人々が育休を取得しやすく学生と共に考える姿勢を今も大切にしている。「筑波大の教職を目指す学生は、学校生活で困難を抱えた経験が比較的少ない。体罰や不登校などの実態を研究や調査で明らかにし、その困難さについて、学生自身に気づいてほしい」と訴える。

筑波大での教員生活は34年。学生の頃から数え、人生の大半を筑波大で過ごしたことになる。退職後も何らかの形で学校での支援を続ける希望を持つ。「筑波大では、たくさんの出会いに恵まれ、優秀な学生と出会い、多くの学びを得た。学生の皆さんには、一生の宝となる優れた教員や素晴らしい仲間との出会いを重ね、学び、自分を磨いてもらいたい」と話す。

学校現場の問題解決を支援

退職後も何らかの形で学校での支援を続ける希望を持つ。「筑波大では、たくさんの出会いに恵まれ、優秀な学生と出会い、多くの学びを得た。学生の皆さんには、一生の宝となる優れた教員や素晴らしい仲間との出会いを重ね、学び、自分を磨いてもらいたい」と話す。

母親の姿が 研究の原点

個人農家や農業法人の事業経営について研究する農業経営学が専門だ。その中でも、担い手の動向や、機械化や農業法人化など農業形態の変化と事業内容の関係などについて研究してきた。

箱根山の外輪山のふもとにある神奈川県小田原市の農山村で育った。実家はミカン農家で、母親は1日中農業に従事していた。当時の日本は高度経済成長期で、都市部では専業主婦が増えていた。母親の姿を見て農村の貧しさを感じ、農業の経営の実態に興味を持ったという。

大学では、北海道大農学農家1戸当たりの平均水田面積は元々1畝ほどだった。1970年代ごろから出た筑波大の教員から声がかかり、2000年に筑波大に転校した。農業は農家が代々継承する個人事業から、大型機械を導入した企業的な事業に大きく変貌を遂げる

時期だった。その後、学会で知り合った筑波大の教員から声がかかり、2000年に筑波大に転校した。農業は農家が代々継承する個人事業から、大型機械を導入した企業的な事業に大きく変貌を遂げる

また、研究室に所属した社会人大学院生の中には、博士号や修士号を取得した農業法人の経営者も多かった。自身もこれに触発され、雇用型の農業法人における従業員の人材育成についての研究なども行った。

退職後は、現在務める一般社団法人日本農運携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。

中立な立場で 真実を追求

専門は法医学。これまで解剖した検死体は1万5千を超えた。DNA鑑定は、自身の手で新しい時代を切り開いていくつもりだ。この夢があったという。

法医学の道を選んだのは「フロンティア精神」からだ。当時のDNA鑑定は、日本ではまだ黎明期で、自身の手で新しい時代を切り開いていくつもりだ。この夢があったという。

法医学者として最初の1歩を踏み出した信州大での発見が、転機となった。1992年、個人の識別に利用できる4種類のDNA部位に関する実験を繰り返していった時のことだ。そのうちの1つであるMCT118を使うDNA鑑定は、日本の警察が使われていたが、当時の検出方法では解析条件次第で誤鑑定を招くという重大な欠陥を見つけた。本田教授



本田 克也 教授 (医学医療系・法医学)

「革新的な方法は、思い込みを避け、常識にとらわれない思考から生まれる」と研究人生を振り返る。今後は、2018年に自身が設立したNPO法人「法医学鑑定センター」で研究を続け、「社会的正義の実現のために中立で正確な鑑定を続けていく。



納口 りり子 教授 (生環系・農業経済学)

退職後は、現在務める一般社団法人日本農運携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。

農業経営の変遷見つめて

退職後は、現在務める一般社団法人日本農運携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。

DNA鑑定の可能性広げる

退職後は、現在務める一般社団法人日本農運携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。



Hello! 先端研究



大津 厳生准教授

米国の複数の企業が昨年、民間人の宇宙飛行に成功した。また、実業家の前澤友作氏ら2人が日本の民間人として初めて国際宇宙ステーション(ISS)に滞在し、2021年は宇宙旅行元年と呼ばれる。誰もが宇宙に行ける日が、少しずつ近づいている。だが、宇宙長期滞在は生き物の体にさまざまな不具合を生じさせる。無重力環境や宇宙を飛び交

数々のアスリートを支える

アスリートのけが予防や治療方法を研究するスポーツ医学が専門。アスリートの健康管理やトレーニングを指導するアスレチックトレーナー(AT)としても多くのプロ選手らをサポートしてきた。

北海道出身。大学まで陸上競技に打ち込んだ。専門は100メートルハードルで、高校時代は14秒70と国内ランキング10位(当時)の記録を出す実力者だった。だが、筑波大体育専門学群2年生の春に膝を剥離骨折。痛みを感じながらも練習を続けたために状態が悪化し、選手を引退した。「選手としてもっと高みを目指せたのでは」と悔

白木 仁 教授 (体育系・スポーツ医学)



「腰割り」をする白木教授

しきが今もある。後輩たちには、たった一度のけがで競技人生を諦めた自分のようになつてほしくない。そんな思いから、トレー

ナーを目指すようになった。大学院で応用解剖学を専攻し、骨格や筋肉の形状、それらの組織の形成過程などを学んだ。また、四足歩

り、直立時に上からかかる重りに対しては十分な構造をしておらず、腰痛が起きやすい。腹筋や背筋を鍛

えると予防できる。1991年に筑波大の講師に着任し96年に日本スポーツ協会のATの資格を取得した。心がけているのは、研究でトレーニングの効果を検証し、ATとしての選手への助言に説得力を持たせること。「分野横断的に研究できる筑波大にいたからこそできた」と

研究に基づく

トレーニング実践

腰割りは足を大きく開き、腰を垂直に下ろす動きで、相撲で四股を踏む際の基本形だ。「股関節周りの筋力を高め、可動域を大きくする働きがある。けがの減少や腰痛の軽減などに効果がある」と話す。体重100kgを超す力士が素早くしなやかに動ける秘密は股関節にあると考え、スクワットをする時と四股を踏む時の筋電図などによる測定を行った。

「腰割り」をする白木教授

「腰割り」は足を大きく開き、腰を垂直に下ろす動きで、相撲で四股を踏む際の基本形だ。「股関節周りの筋力を高め、可動域を大きくする働きがある。けがの減少や腰痛の軽減などに効果がある」と話す。体重100kgを超す力士が素早くしなやかに動ける秘密は股関節にあると考え、スクワットをする時と四股を踏む時の筋電図などによる測定を行った。

宇宙滞在が招く酸化ストレス

放射線の影響が考えられ、特に肝臓については、線維化や脂肪肝などの障害が引き起こされることが分かっていた。これらの現象は生体の酸化ストレスが原因である可能性が指摘されていたが、具体的な仕組みは明らかにできていなかった。大津厳生准教授(生環)

健康な宇宙生活の手がかりに

系は、バイオテクノロジー企業ユークレナ(東京都港区)の協力を得て、宇宙で飼育されたマウスの肝臓組織に含まれる硫酸化合物を解析した。生体内の酸化還元状態

物の代謝に関する遺伝子の発現が増加していた。これは、酸化ストレスにより減少する硫酸化合物を再供給するためのと考えられた。大津准教授は、研究のポイントとして特に、宇宙飼育マウスでエルゴチオニンという硫酸化合物が地上生活時の半分に減少していたことを挙げる。哺乳類の体内では合成できず、一部のキノコなどから微量を摂取する

「ウォーカブルシティ(Walkable City)」直訳すると「歩ける街」。更には、車中心に作られてきた都市を、人中心、徒歩・公共交通中心に転換して、ライフスタイル自体も歩く暮らしに転換した街のことです。

ニวยอร์ก、ポルトランド、パリ、バルセロナ、ストックホルムなど世界の多くの都市は、行き過ぎたモータリゼーション(自動車の普及)を反省し、数十年前からウォーカブルシティに舵を切り、日本は後発組になつていきます。3年前、私はフランスの地方都市を旅行し、「なんて日本は遅れているんだ」と衝撃を受けました。人々が便利な公共交通を使い、歩いて暮らし、日本でもよく見るシャッター

金を活用して、土浦のようになっている都市の支援をしました。現在の小山市では、当時土浦でできなかった問題解決を実行する仕事をしています。あの頃の伏線を回収する日が来る

「小山は車社会」で、苦勞することばかりあります。しかし3年継続してこんな声も増えてきました。「車を手放してバス通勤している」「駅前広場を歩行者中心に再整備したい」。協力してくれる人が増える度うれしくなります。実習の経験が、自分の価値観や仕事観に影響を与えてくれた。大学には授業だけでなく、その後の自分に影響を与える経験がたくさんあると思います。もしかしら、それは私のように後で気づくことになるかもしれません。大学の生活は人生のどこかでつなげて、何かに結びつくはず。平成19年社会学類卒 写真(本人提供)



「ウォーカブルシティ(Walkable City)」直訳すると「歩ける街」。更には、車中心に作られてきた都市を、人中心、徒歩・公共交通中心に転換して、ライフスタイル自体も歩く暮らしに転換した街のことです。

実習の経験、今に生きる

健康問題も顕在化してきています。当時、土浦で見た「都市の衰退」は、筑波大生として車生活を謳歌していた自分の価値観を大きく



小山市都市整備部長 浅見知秀 さん

共交通にシフトさせるにはどうすればよいか。新卒で就職したJR東日本では、駅中心のまちづくり。その後転職した国土交通省では、法律や補助

「小山は車社会」で、苦勞することばかりあります。しかし3年継続してこんな声も増えてきました。「車を手放してバス通勤している」「駅前広場を歩行者中心に再整備したい」。協力してくれる人が増える度うれしくなります。実習の経験が、自分の価値観や仕事観に影響を与えてくれた。大学には授業だけでなく、その後の自分に影響を与える経験がたくさんあると思います。もしかしら、それは私のように後で気づくことになるかもしれません。大学の生活は人生のどこかでつなげて、何かに結びつくはず。平成19年社会学類卒 写真(本人提供)



街もありません。私は現在、国土交通省から栃木県小山市に転向し、ウォーカブルシティづくりを目指して仕事をしていますが、その志の源流は大学時代までさかのぼります。社会学類3年生時の

例えは再開発事業やバスのサービス改善、公園や道路でのイベント開催、空き店舗再生などを地域の方と協力して行っています。「小山は車社会」で、苦勞することばかりあります。しかし3年継続してこんな声も増えてきました。「車を手放してバス通勤している」「駅前広場を歩行者中心に再整備したい」。協力してくれる人が増える度うれしくなります。実習の経験が、自分の価値観や仕事観に影響を与えてくれた。大学には授業だけでなく、その後の自分に影響を与える経験がたくさんあると思います。もしかしら、それは私のように後で気づくことになるかもしれません。大学の生活は人生のどこかでつなげて、何かに結びつくはず。平成19年社会学類卒 写真(本人提供)

インカレベスト8で敗退

駒澤大戦1点遠く

【浦安市運動公園陸上競技場(千葉県浦安市)で細井真生(人文学類2年、写真も。12面に関連写真)全日本学生選手権(インカレ)が昨年12月8、25日に行われた。筑波大は14日の準々決勝で駒澤大と対戦し、0-1で敗れた。コロナ禍で大会が中止された昨年から、2017年から4大会連続でベスト8にとどまった。駒澤大はその後も勝利を重ね、15年ぶりに大学日本一に輝いた。



と対戦。前半終了間際の44分に角昂志郎(体専1年)が先制点を決め、0-1から登場し、京都産業大で折り返した。その後も

52分に三浦雅人(同3年)が、63分には森海渡(同3年)がそれぞれシュートを決め、3-0で快勝した。駒澤大とは昨年11月の関東大学リーグ最終戦で対戦し、0-1で苦杯をなめていた。また、3年前のインカレでは今大会と同じ準々決勝で対戦し、1-2で敗れた相手だった。

小井土正亮監督(体育系・助教)は「お互いのプレーの特徴は分かっている中で、試合になったと話した。試合開始6分、右サイドを突破され、ゴールを許した。その後は、筑波大の強みでもあるショートパスをつなぐプレーで相手陣に攻め込み、同36分に岩本翔(体専3年)がミドルシュートを放ったが、相手キーパーの体を張ったセーブで得点を阻まれた。後半開始から11分間で相手のコーナーキックが4本続いたがしのぎきり、筑波大はボールを細かく動かして攻めに転じた。しかし、相手の守備を崩せず、0-1で試合を終えた。

ミッドフィールダーで先発出場した山内翔(同2年)は「タイトルを目指していたため、サッカー人生で最も悔しい試合になった。決定機を作れなかったのが敗因になった」と振り返った。

大学サッカー最終戦となった山原怜音(同4年)は「後輩たちは、たくましく頼りになる。今回のような苦しい試合でも、確実にパスをつないで前進し、シュートチャンスを増やせば、タイトルも獲れる」と来季に期待を寄せた。

阿部 学生タイトル全制覇

室内インカレ女子単優勝で



優勝を決めた阿部 = 全日本学生テニス連盟提供

全日本学生室内テニス選手権(室内インカレ)が昨年12月1-5日に江坂テニスセンター(大阪府吹田市)で行われ、阿部宏美(体専3年)が女子シングルスで初優勝した。阿部は1年時の全日本大学対抗王座決定戦で筑波大を初の団体優勝に導き、2年時には全日本学生選手権(インカレ)のシングルスとダブルス、室内インカレのダブルスのタイトルを獲得。今回のシングルス優勝で、全日本学生タイトルを全て制覇した。

(松村英美) | 日本語・日本文化学類1年、山田優芽

テニス

阿部は今大会の女子シングルスで、準々決勝までの3試合を1セットも落とさずに快勝。4日の準決勝では、神鳥舞(早稲田大)と対戦した。

阿部は積極的に攻め、第1セットを6-1で制したが、第2セットは3-6で奪われた。勝負の第3セットでは、ネット際に落とさ

たパスをつなぐプレーで相手陣に攻め込み、同36分に岩本翔(体専3年)がミドルシュートを放ったが、相手キーパーの体を張ったセーブで得点を阻まれた。後半開始から11分間で相手のコーナーキックが4本続いたがしのぎきり、筑波大はボールを細かく動かして攻めに転じた。しかし、相手の守備を崩せず、0-1で試合を終えた。

森海渡 今季からプロ入団

「大きな決断だった」



森海渡

【一面参照】筑波大学蹴球部のエースストライカーとしてチームをけん引してきた森海渡(体専3年)が、今シーズンからのJ1柏レイソル加入を決断した。3年生で蹴球部を退部し、プロ選手としての挑戦を前倒した理由や今後の目標を聞いた。

「一面参照」筑波大学蹴球部のエースストライカーとしてチームをけん引してきた森海渡(体専3年)が、今シーズンからのJ1柏レイソル加入を決断した。3年生で蹴球部を退部し、プロ選手としての挑戦を前倒した理由や今後の目標を聞いた。

サッカー

早期のプロ加入をいつから考えていたか

「選抜の一として1年時から頭にはあったが、昨シーズンは始めることに現実的に考えた。まずは筑波で結果を残してからという思いが、(角田)涼太朗君が昨年の前期で横浜F・マリノスに入団した時には、「いつかは自分も」と思っていた。

「なぜ卒業を待たずに」

加入を決めたのか

卒業論文以外の単位は3年間で取れた。早い段階からより高いレベルでプレーすることで、サッカー選手としても成長したいと強く思い、決断した。

大学に入学した理由の一つは、教員免許を取得し、現役引退後の選択肢を広げるため。教職科目の単位も取っていたが、この時期にプロに行くことで教育実習ができ、教員免許も取れなくなる。大きな決断だったが、それ以上にチャレンジしたい気持ちが強かった。

「同期や後輩の反応は」

「さみしい」と言ってくれたけれど、第8ゲームを永田に返して打ち返し、ポイントを取るなど粘り強いプレーを見せて3ゲームを連取し、4-1とリードした。中盤で神鳥も盛り返し、4-4となったが、最後は突き放して、6-4でゲームを制した。

阿部は「今大会は優勝を目指していたが、夏のインカレで課題となった攻めの弱さの克服を一番に考えていた。全日本学生大会の全てのタイトルを取れるとは思ってなかった。う

なが納得していない状況で行くのは許さない」と言われた。

今回の決断は、自分だけではなく大学サッカーの印象にも関わるものだった。大学で少し活躍すればすぐプロに行きたいとなれば、大学サッカーが軽いものと思われかねないから。監督や仲間にも話したが、監督や仲間に認めてもらえなかった。プロに行きたいと強く思った。

「大学3年間で得たことをどう生かすか

1年時の11月から9カ月間、けがで試合に出られなくなった時は、どん底に落ちたと感じた。だが、このままではだめだとすぐに切り替え、体作りを専念した。食事面では自炊をしてたんぱく質を多く取り、脂質を少なくすることを心がけた。また、筋トレで体重を8kgほど増やした。監督がよく口にする「自分は何も教えない」という言葉の

おかげで、自分が何をしなければいけないかを考える力がついたと思う。今後も、目標のために今何をすべきかを分析し、実行に移すことを繰り返しながら頑張りたい。

「プロとしての目標は」

柏レイソルを代表するストライカーになりたい。レイソルと言えば森海渡と言われるほどの活躍をし、26年のFIFAワールドカップに出るのが一つの目標。将来は海外のビッグクラブでもプレーしたい。

森海渡(もりかいと) 2000年6月生まれ。千葉県出身。柏レイソルのユース出身でU12からU18までプレーしていた。19年には筑波大体育専門学校に入学。蹴球部のフォワードとして活躍し、関東大学リーグでは、1年時に新人賞、3年時にはベストイレブンに選出された。

初優勝を果たした。

第1シードの米川は2回戦から登場し、山口ひかる(大成高)と対戦。積極的な攻めで山口に指導二つが与えられたが、勝負を決めきれず、延長戦にもつれ込んだ。延長3分、相手の息が上がって、足元が不安定になったところを逃さず、内股で技ありを奪った。

続く準々決勝の相手は瀬戸美咲(天理高)。序盤から積極的に内股を仕掛けて

勝利に貢献し、小学生時代から尊敬する大谷秀和選手(柏レイソル)を超えるような選手になりたい」と話した。

会見前日に新潟Sに内定した前主将の小林は「Jリーグに行くという目標はかなわなかったが、現実を受け止め、チームで圧倒的な存在感を誇る選手になりたい」と、海外でプレーする意気込みをみせた。

小井土正亮監督(体育系・助教)は選手一人一人に激励の言葉をかけた後、「4年間、タイトルを獲らせてあげられなかったのは、私の力不足。彼らの前向きな姿勢にチームも私も助けられた。感謝しかない」と話した。

プロクラブに7選手

小井土監督「感謝しかない」

サッカーのプロクラブ入団が内定した筑波大学蹴球部の合同記者会見が昨年12月27日、大会会館で開催された。会見には、山原怜音(体専4年) || J1清水エスパルス、加藤匠人(同4年)、森海渡(同3年) || 共にJ1柏レイソル、井川空(同4年) || J1北海道コンサドーレ札幌、小林幹(同4年) || アルビレックス新潟シンガポール(新潟S)の内定選手5人と、昨年7月にJ1横浜F・マリノスに加入した角田涼太朗(同4年)が登場した。また、今年1月5日にはキーパーとして活躍した櫻庭立樹(同4年)のJ3FC大阪加入が発表された。

(細井真生、写真も)

サッカークラブ

加藤、森、井川はそれぞれ、大学入学前に所属していた下部組織の親クラブに復帰する。小学5年生から高校3年



所属クラブのユニフォームを着て写真撮影に応じる選手ら(昨年12月27日、大会会館特別会議室で)

生まで柏レイソルの下部組織に所属していた加藤は「ことがうれしい。チームの

黒川 悲願の学生日本一 笠は女子3位入賞



決勝戦でメンに飛び込む黒川(右) = LET'S KENDO 提供

剣道の学生日本一を個人で争う全日本学生選手権と全日本女子学生選手権が昨年12月4日、墨田区総合体育館(東京都墨田区)で開かれ、男子は黒川雄大(体専3年)が優勝した。筑波大勢では2019年(20年は中止)の星野啓太(令和2年度体育専門学群卒)に続く優勝だ。女子は笠日向子(体専1年)が3位入賞、海津ゆきえ(同2年)がベスト8に入った。筑波大勢がベスト4以上になるのは4年ぶり。
(福澤航介II生物資源学類2年)

剣道 全日本学生選手権

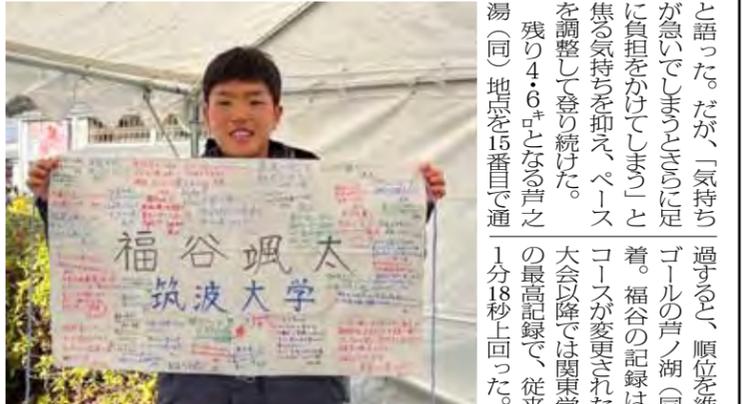
男子
筑波大からは、黒川、近本太郎(同4年)、重黒木祐介(同3年)の3選手が出場。近本は3回戦、重黒木は4回戦で敗退した。黒川は準決勝までの7試合を、積極的な試合運びで勝ち上がった。決勝戦では、木村恵都(鹿屋体育大)と対戦。試合開始約1分、お互いに間合いを詰めたところで、黒川が思い切りのいいメンを放ち、一本になった。取り返したい木村に果敢に攻められるも、黒川はうまく受けて、優勝を決めた。鍋山隆弘(男子監督、体育系・准教授)は、「黒川は大会序盤から順調だった。積極的に一本を取りに行く姿勢が優勝につながったのではないかと振り返った。黒川は、「優勝できてうれ

11年ぶりの優勝 新人戦で関東制す

関東女子学生新人戦が昨年12月8日、東京武道館(東京都足立区)で開かれた。各大学の1、2年生が5人でチームを組む団体戦で、筑波大は2010年以来11年ぶりに優勝した。初戦から準々決勝までの4試合を、それぞれ先鋒から大将まで負けなしの圧倒的な強さで、危なげなく勝ち上がった。準決勝では東洋大と対戦した。先鋒戦で川合芳奈(体専1年)は、相手が止まるところをメンに飛び込み、一本勝ちを収めた。次鋒戦の岩本瑚々(同1年)は、相手が大將の佐藤を倒すまで、危なげなく勝ちを収めた。決勝では中央大と対戦した。先鋒戦は川合が果敢な攻めからメンを放ち、一本勝ちを収める。次鋒戦で岩本は、一本勝ちを収めた。大將の笠日向子(同1年)は相手のメンをうまくかわし、空いたところにかさずメンを打ち、一本を勝ち取った。相手の大將戦では、落ちていた一本を決めようとして試合に臨み、しっかりと決めることができた」と語った。(福澤航介)

山登りの5区 10位相当 福谷「目標通りの結果出せた」

筑波大陸上競技部の福谷颯太(体専3年)が1月2、3日の第98回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に関東学生連合チームII(5区)として出場した。関東学生連合はオープン参加で正式順位はつかないが、福谷は往路5区を区間10位相当の1時間13分01秒で走った。筑波大生の箱根駅伝出場は2020年にチームとして出場して以来2年ぶり。関東学生連合は総合記録11時間0分25秒で、14位相当だった。
(細井真生)



出走前、部員からのメッセージを掲げる福谷 = 陸上競技部提供

と語った。だが、「気持ちで急いでしまうとさらに足に負担をかけてしまう」と焦る気持ちを抑え、ペースを調整して走り続けた。残り4.6kmとなる芦之湯(同)地点を15番目で通過すると、順位を維持してゴールの芦ノ湖(同)に着く。福谷の記録は5区の中で、1位の青山学院大とは8分09秒差だった。福谷は「1時間13分で走り、区間10位相当に入るのが目標だった。その通りの結果は出せたが、足を痛めていなければもっと良いタイムが出たかもしれない。悔しさも残った。駅伝主将として、筑波大が来年の箱根駅伝に出場できるように、今回の経験を部員にも伝えていきたい」と話した。
【関東学生連合チームII】
箱根駅伝予選会で出場権を得られなかった大学から、個人成績が優秀な選手を選抜して構成されるチーム。

「個人でも日本一」 関東女子学生優勝大会 団体戦で優勝

1年時の悔しさを胸に、大將として臨んだ2年時夏の玉竜旗剣道大会では、決勝で前年の魁星旗で敗れた守谷高校との対戦。大將戦に勝利した。今後の目標は全日本女子学生選手権や全日本女子選手権など、主要大会の個人戦優勝だ。「個人で日本一になったことがない。今まで支えてくれた両親や先生、仲間们に感謝したい。」(福澤航介II生物資源学類2年 写真も)

スポーツ 顔

「勝負所だと集中力が増す。一本でも取られれば筑波大の負けが決まる大一番で、その緊張感を楽しんでた。中央大の代表はその年の全日本女子選手権覇者だった。関東女子学生優勝大会の決勝。中央大との対戦は、代表者戦にもつれ込んだ。」
昨年9月、団体戦で争う関東女子学生優勝大会の決勝。中央大との対戦は、代表者戦にもつれ込んだ。有田祐二(女子監督、体育系・准教授)は「3選手ともよく頑張った。笠は試合巧者ぶりが際立っていた」と話した。

「良い流れを作れた」

学校大会の女子個人戦で3位入賞し、本気で「日本一になりたい」と思うようになった。高校は、中学時代から憧れていた全国屈指の強豪校、中村学園女子高。1年時の悔しさを胸に、大將として臨んだ2年時夏の玉竜旗剣道大会では、決勝で前年の魁星旗で敗れた守谷高校との対戦。大將戦に勝利した。今後の目標は全日本女子学生選手権や全日本女子選手権など、主要大会の個人戦優勝だ。「個人で日本一になったことがない。今まで支えてくれた両親や先生、仲間们に感謝したい。」(福澤航介II生物資源学類2年 写真も)

「良い流れを作れた」

は、相手がメンを打った隙を突いてメンを決め、一本勝ち。中堅戦は海津ゆきえ(同2年)が立て続けに3回メンを決め、二本勝ちを収めた。3連勝で決勝進出を決めた。その後の副将戦は引き分け、大將戦は二本勝ちを収めた。決勝では中央大と対戦した。先鋒戦は川合が果敢な攻めからメンを放ち、一本勝ちを収める。次鋒戦で岩本は、一本勝ちを収めた。大將の笠日向子(同1年)は相手のメンをうまくかわし、空いたところにかさずメンを打ち、一本を勝ち取った。相手の大將戦では、落ちていた一本を決めようとして試合に臨み、しっかりと決めることができた」と語った。(福澤航介)

「良い流れを作れた」

て優勝を決め、リベンジを果たした。3年時はコロナ禍で大会が次々に中止になった。「今まで何のために稽古をしていたのか」という喪失感に襲われたが、「大会がなくなった分、後輩の指導をきちんと受けたい」と気持ちを入れ替えた。剣道部引退後も受験勉強と両立しながら稽古を続けた。レベルの高い選手が同級生として集まるという環境で、筑波大に進学を決めた。「その中で、自分がどれくらい通用するのか挑戦したかった。実績ある選手ばかりの剣道部だが、高校時代の教えを胸に、誰よりも早く面を付けて準備をし、一番大きな声を出すことを意識して練習に励んでいる。今後の目標は全日本女子学生選手権や全日本女子選手権など、主要大会の個人戦優勝だ。「個人で日本一になったことがない。今まで支えてくれた両親や先生、仲間们に感謝したい。」(福澤航介II生物資源学類2年 写真も)



関東女子学生優勝大会 団体戦で優勝

笠 日向子 (体専1年)

1年時の悔しさを胸に、大將として臨んだ2年時夏の玉竜旗剣道大会では、決勝で前年の魁星旗で敗れた守谷高校との対戦。大將戦に勝利した。今後の目標は全日本女子学生選手権や全日本女子選手権など、主要大会の個人戦優勝だ。「個人で日本一になったことがない。今まで支えてくれた両親や先生、仲間们に感謝したい。」(福澤航介II生物資源学類2年 写真も)

留学生らに餅配布

日本の正月文化を紹介

留学生と外国人研究者を中心に餅を配布する「振舞餅-Furumai Mochi 2021」が昨年12月21〜24日、チューデントサポートセンターのチューデント・コモンズ(1A棟)で開かれた。日本の正月文化の紹介や異文化交流の促進が狙いで、多くの学生に参加してもらった。キャンパスに来る人が多い秋Bモジュールの試験期間中に開催した。日本人学生を含む約300人が紅白の餅(二つ)を受け取り、書道体験などを楽しんだ。(大橋翔和、写真も。12面に関連写真)



留学生らに餅を配布する「振舞餅-Furumai Mochi 2021」の様子(昨年12月22日、1A棟)

同センター国際交流支援室と国際局グローバル・コミュニケーションが共催した。餅と一緒に配布された冊子では、門松やおせち料理、羽根つきなどが英語で解説された。会場にはけん玉やま回しなどの正月遊びのコーナーが設けられた他、芸術専門学群の書道領域の学生による季節の書と「筑波大学池坊華道部」による生け花が展示され、日本の正月文化が紹介された。

作りの体験ブースも設けられた。コロナ禍でも留学生が孤立しないよう、今年度も引き続き来場した学生がいたり、書道体験に毎日訪れる学生がいたり好評だった。コロナ禍でも留学生が孤立しないよう、今年度も引き続き来場した学生がいたり、書道体験に毎日訪れる学生がいたり好評だった。

レジにゲート設置

カスミ筑波大学店

業務負担の軽減狙い

スーパーマーケットのカスミ筑波大学店が昨年12月13日、レジゲートを設置された。同店の利用客は必ずこのゲートを通り、決済済みの確認を終えてから退店する。利用客が安心して買い物できるようにすることと従業員のレジ業務の効率化を図ることが狙いだ。決済方法の完全キャッシュレス化なく、先進的な取り組みを進めてきた同店で試験的に導入された。(寺尾優次、写真も)



新設されたレジゲート(1月14日、カスミ筑波大学店)

筑波大生 古着店オープン

自分の「似合う」見つける場に

筑波大生が経営する古着店「Lily of the valley」が昨年12月3日、つくば駅前商業施設「tonarie Q't」(トナリエ・キュート)にはお吾妻の1階にオープンした。創業を目指す若い世代をつくば市が支援する「チャレンジショップ事業」の一環で、今年2月末まで営業を続ける。代表の岡本萌美さん(社2年生)は「お客様が自分に似合うスタイルを見つけたり、普段は着ない服に挑戦したりするお手伝いがしたい」と話している。(山田優芽、写真も)



商品の古着を持つ岡本さん(昨年12月23日、tonarie Q'tで)

この事業は、つくば市の「この花言葉は「幸福の再来」で、着られなくなった服をお客さんに届けて、再び服が幸せになるように」という思いを込めた。約90平方メートルの店内には、ジャケットやコートなど、着3000〜6000円の古着約300着が並ぶ。また、アクセサリやバッグ

なとも置かれており、岡本さんを含め17人の学生スタッフは、服のコーディネートに力を入れている。中心は70〜90年代の相模原にも積極的に対応している。「昨日よりちょっとおしゃれに」がコンセプトで、強さの中心は70〜90年代の相模原にも積極的に対応している。「昨日よりちょっとおしゃれに」がコンセプトで、強さの中心は70〜90年代の相模原にも積極的に対応している。

代のブランド物だ。月に2回、スタッフの筑波大生が千葉県や埼玉県の卸業者から買い付けている。岡本さんは、高校生の頃から経営に興味があり、筑波大入学後は学内サークルや東京都での起業の勉強会に参加してきた。また、友人から「服のコーディネートに力を入れている」と声をかけられ、この夢を掲げている。

筑波大生が準優勝
大学生による書評合戦「大学ヒリアオバトル」が開催された。

ヒリアオバトル
大学生による書評合戦「大学ヒリアオバトル」が開催された。

「昨日よりちょっとおしゃれに」がコンセプトで、強さの中心は70〜90年代の相模原にも積極的に対応している。「昨日よりちょっとおしゃれに」がコンセプトで、強さの中心は70〜90年代の相模原にも積極的に対応している。

池田 果凜
私は英国北部スコットランドのエディンバラで暮らしています。コロナ禍で不安と希望が入り混じる中、留学が始まる前から早急な準備がはじまっています。

エディンバラ大学
私は英国北部スコットランドのエディンバラで暮らしています。コロナ禍で不安と希望が入り混じる中、留学が始まる前から早急な準備がはじまっています。

異文化交流で視野を広げ
コースを履修していきま... 世界各國からやってきた留学生と共同生活を営んでいます。



異文化交流で視野を広げ
コースを履修していきま... 世界各國からやってきた留学生と共同生活を営んでいます。

異文化交流で視野を広げ
コースを履修していきま... 世界各國からやってきた留学生と共同生活を営んでいます。

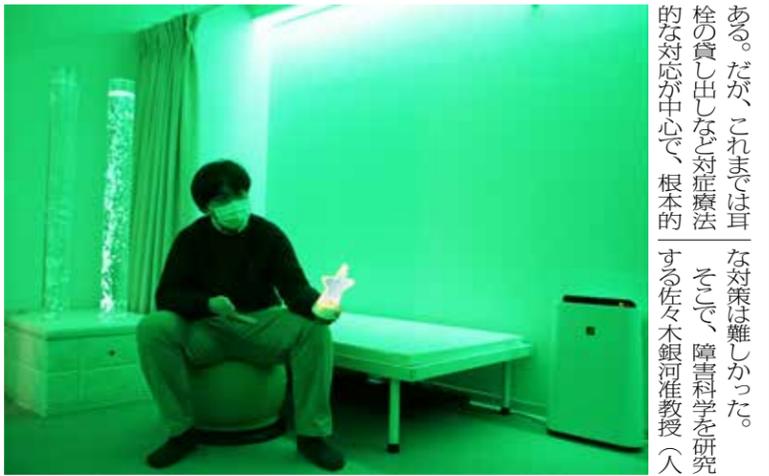
異文化交流で視野を広げ
コースを履修していきま... 世界各國からやってきた留学生と共同生活を営んでいます。

異文化交流で視野を広げ
コースを履修していきま... 世界各國からやってきた留学生と共同生活を営んでいます。

DACセンター 障害に合わせた学習空間設置 国内の大学で初

筑波大のダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACセンター)に、障害学生向けの学習・休憩スペース「アクセシブルスタディルーム(ASルーム)」が設置された。障害学生が持つ感覚過敏などに対応し、部屋の色や光、音を自在に調節できる。国内の大学では初の設置で、昨年8月の運用開始から16人が利用している。

ASルームは、DACセンターを合わせて約1万6500人の学生が利用できる。広さは約40平方メートルで、複数人用の共同自習室(第二エリア2A307)と一人用の自習・休憩室(同エリア2A307-1)の二つに分かれている。ASルームは、DACセンターを合わせて約1万6500人の学生が利用できる。広さは約40平方メートルで、複数人用の共同自習室(第二エリア2A307)と一人用の自習・休憩室(同エリア2A307-1)の二つに分かれている。



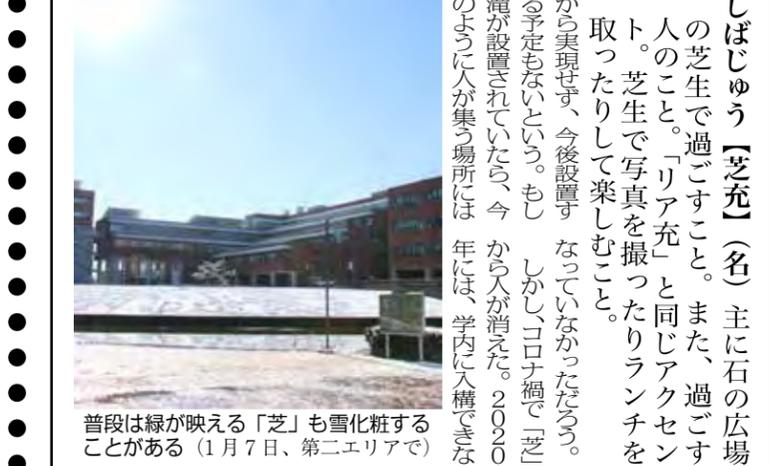
部屋の光の色を調節し、備品の説明をする佐々木准教授(昨年12月27日、2A棟)

ある。だが、これまでは耳栓の貸し出しなど対症療法的な対応が中心で、根本的な対策は難しかった。そこで、障害科学を研究する佐々木銀河准教授(人間系)と小山慎一教授(芸術系)らは、2019年にASルームの設置プロジェクトチームを結成した。国内外の事例や、障害学生の意見を取り入れながら設計を進め、昨年7月に完成させた。一人用の自習・休憩室では、学生の多様な感覚に配慮し、照明の色や室内の音楽を、学生の好みに合わせて調整できる。備品にも工夫を凝らした。円筒内の水の中を泡が登っていくバブルチューブや簡易式テント、中心部分を握る羽を弾く回転する



筑波発! キャンパスことば

石の広場の「芝」は、友人と昼食を取ったり、語り合ったりする学生の憩いの場だ。開学当初、ここには幅50メートル、落差7メートルの人工滝を設置する計画があった。松美池など学内の五つの池は、静かな水として、既存の谷津田を利用して造られた。唯一動かな水として計画されたのが、滝だった。施設部によると、コスト面



普段は緑が映える「芝」も雪化粧することがある(1月7日、第二エリア)

しばじゅう「芝充」(名)主に石の広場の芝生で過ごすこと。また、過ごす人のこと。「リア充」と同じアクセシブル。芝生で写真を撮ったりランチを取ったりして楽しむこと。から実現せず、今後設置する予定もないという。もし、滝が設置されていたら、今年には、学内に入構できない中、「芝」で友人とのんびり過ごすのも難しい。「芝」は筑波大の今を映す鏡。初々しい一年生の集団や、さまざまな言語で交流する留学生はあまり見られなくなった。だが、本当は学生も「芝充」したいはずだ。人的交流の場として、「芝」が再びにぎわうことを願いたい。(西村大祐 人文文学部4年、写真も) 〓おわり

「つくば茶寮」発売 筑波大とコート・ダジュール 共同開発



つくば茶寮が店頭で並び(1月12日、コート・ダジュール本店)

茨城三大銘茶の一つ「猿島茶」の抹茶ペーストを生地と餡に練り込んだまんじゅう「つくば茶寮」を、つくば市の洋菓子店「コート・ダジュール」(本店・つくば市東新井)が昨年12月に発売した。筑波大と共同開発する二期「今プロジェクト」の第一弾。茶葉を含むカテキンに体への脂肪蓄積抑制効果があることを突き止めた筑波大の研究成果を生かして商品化した。プロジェクトを企画した事業開発推進室の担当者は「つくば市や筑波大の紹介になる」としている。

つくば茶寮は白餡ペーストのまんじゅうで、柔らかくしっとりとした食感で、ほのかに香る抹茶のほろ苦さが特徴だ。同プロジェクトは、つくば市産の抹茶ペーストを開発し、筑波大の教育・研究成果の広報や地域おこしにつなげることを目的だ。

健康イノベーション開発研究センター長の坂本和一准教授(生環系)と猿島茶を栽培する野口熊太郎茶園(茨城県境町)の共同研究で、茶葉が含むカテキン類には体への脂肪蓄積抑制効果があり、その中でもエピガロカテキンガレート(EGCG)が高い効果を示した。

つくばアクチュアル シミュレーション同好会

36人。活動は水曜と土曜の週2回で、毎回10人

つくばアクチュアル シミュレーション同好会

「T.A.S.C.」はボードゲームなどアナログゲームを楽しむサークルだ。文化系サークル館1階にある10畳ほどの部屋に棚には、サイコロゲームやカードを使った言葉遊びゲームなど、100種類を超すゲームが積み上げられていた。メンバーが持ち寄ったゲームをプレイし、面白ければ部費で買い取る方式で、その数は増え続けているという。現在の会員は36人。活動は水曜と土曜の週2回で、毎回10人



ゲームを楽しむ憩いの場

に並べられた。このゲームの楽しさは……。「有名なほこれ」など、メンバーが思い思いに話している。「初心者向けで遊べる」は山札からカードを1枚引く。この日の参加者は9人だったが、2人からプレイできる。プレイヤーは山札からカードを1枚引く。この日の参加者は9人だったが、2人からプレイできる。プレイヤーは山札からカードを1枚引く。



カードゲーム「コヨーテ」を楽しむメンバー(1月12日、文化系サークル館)

計値を順番に推理して正確性を競う。あえて大きい数字を言って場を惑わせるプレイヤーがいたり、全てのカードの数字を2倍にする特殊カードがあったりと、単純なようで奥が深いゲームだ。勝負が決着すると「やられた」「なるほど」などと、メンバーたちは互いの戦略について、楽しげに話し始めた。

ここ数年、人気が高まっているのが、テーブルゲームと呼ばれる、ロールプレイングゲーム(TRPG)だ。架空の物語世界を舞台に、参加者が謎を解いたり、冒険をしたりする。参加者はゲームの進行役の指示に従い、割り振られたキャラクターを演じて、他の参加者と会話を重ねていく。テレビゲームのRPGと大きな違いは、人間が全ての処理を行うことだ。やり終えるまで2〜6時間程度かかるが、石上直直さん(物理1年)は「プレイヤー次第で物語の内容や結末が毎回変わる。物語を能動的に広げられる没入感や、みつきになる魅力を感じる。また、平野玲弥さん(比文1年)は、キャラクターの姿を借りて会話している」と、参加者の思わぬ性格や考え方に触れられる瞬間があつて面白い」と言う。

Who's Who?

「つくコレ」グランプリ

旗手 有菜 さん (国際4年)



グランプリのたすきをかけてほほ笑む旗手さん=本人提供

男女平等な社会を実現したい。その思いを実現する第一歩として、「ジェンダー問題に

の世界に憧れ、海外で働きたいという漠然とした夢を持って筑波国際総合学類に入学した。

が共に生きるすい社会づくりを進められる仕事だ」と思ったという。

男女平等の実現訴え 将来は国連職員を目指す

「世界に行く前に日本の現状を知りたい」という理由から、大学では日本の育児環境について研究している。「核家族化や男らしさ、女らしさというしがらみ、女性の低賃金などにより、女性が仕事と家事・育児を両立できない状況が生じている」と分析。

稲農業機関(FAO)のカザフスタン支部に配属された。コロナ禍のため現地渡航はできない状況だが、オンラインで活動を続けている。ウェブサイトに載せる活動報告の作成などを通して、FAOの活動と世界の食料生産の現状を発信中だ。

「カザフスタンには塩害による農作物の被害が深刻な地域。本来なら、塩害の実態調査や地域住民へのインタビューをする予定だったが、現地に行かないと分からないことも多く、悔しい。だが、オンラインでもFAOのプロジェクトや業務内容、忙しいなど国連職員の仕事を知ることができて」と語る。

国連職員の応募には修士号が必要だが、大学院に進学し、女性の育児や出産環境、男女という固定観念によるしがらみの打破について研究を続ける。長い道のりだが、夢に向かって歩き続ける。

次号は 4月5日(火) 発行予定です

大学入学共通テスト実施



感染対策の徹底された会場で受験生は試験を受ける(1月15日、3A棟で) =車谷郁実撮影

2面へ

学内総合

吹奏楽団 定期演奏会



リハーサルでジングルベルを演奏する吹奏楽団の団員ら(昨年12月12日、ノバホールで) =山田優芽撮影

5面へ

学芸

サッカー 全日本大学選手権



先制点を挙げた角(中央)に駆け寄る選手ら(昨年12月11日、京都産業大戦で) =細井真生撮影

8面へ

スポーツ

振舞餅



正月遊びのコーナーを見学する留学生(昨年12月22日、1A棟で) =大橋翔和撮影

10面へ

学生生活

編集後記

ます(2面)▼大学では授業がオンライン化されたこともあり、人間関係の幅が狭まり、課外活動もままなりません。そんな状況下で本紙には何が出来るだろうかと考えます▼今号ではさまざまな筑波大生を取り上げました。トップアスリートとして各競技を引っ張ってきた筑波大生(1、3、9面)、古着店を始めた筑波大生(10面)、つくば土産の開発に関わった筑波大生(11面)……▼紹介した筑波大生の数だけ、思いや生き方がありました。本紙では、これからもそうした筑波大生の姿を読者に届けたいと思います。(編集長・車谷郁実) 社会学類2年

【編集・発行】 筑波大学新聞編集委員会

▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学

▼副委員長 関瑞穂(学生部長) 逸村裕(図書館情報メディア系・教授) 図書館情報学

▼委員 清水(体育系・教授) スポーツ社会学

▼委員 菅純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学

【筑波大学新聞編集部】

▼編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション

▼編集長 車谷郁実(社会学類2年) 副編集長 川千翔(人文学類2年)

▼副編集長 天野隼太(比較文化学類2年) ほか編集部員18人

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版